

INDEX 2 科学研究費助成事業採択結果／香港中文大との連携講座 3 海外留学プログラムの実施状況／留学体験談 4 キャリアを考えるイベント開催／第78回ソフィア祭

2024年度 9月期学位授与式・秋学期入学式

9月20日に2024年度9月期学位授与式が、翌21日に2024年度秋学期入学式が父母、保証人参列のもと行われた。来場できない卒業生、新入生、父母、保証人にはYouTubeから式の模様が同時配信された。

外国語を話す学生が多く国際色豊かな2つの式は、英語研究会(ESS)の学生が司会を務め、すべて英語で執り行われた。

■9月期学位授与式

式はアントニウス・フィルマンシャー神父(カトリック・イエズス会センター)の祝福で始まり、マルコによる福音書9章30節、33節から37節が朗読された。

曄道佳明学長は式辞で「入学時の到達目標や学びの動機を思い返したとき、その志に充分応える学びが完遂できましたか。満点の回答を私は期待しません。偉大なリーダーの目標には、単に達成されるべき数字が並ぶだけでなく、理念に基づく自身の、あるいは社会の展望が色濃くあらわれ、その追い求める姿は常に新たな、高貴なものに変遷していくものだからです。そして、これからそれぞれの役割を全うする中で、ぜひその耳を、目を、心を、立場の弱い人にも向けることを忘れな

いでいてください」と述べ、卒業生を激励した。学位取得者は、博士後期課程(博士)13人(特例による課程博士2人を含む)、博士前期課程(修士)73人、学部(学士)200人。出席した博士全員と、博士前期課程各研究科および各学部の代表学生に曄道学長から学位記が授与された。

サリ・アガスティン理事長、上智大学ソフィア会会長の鳥居正男氏の祝辞に続き、卒業生を代表して葛西華さん(理工学部物質生命理工学科 グリーンサイエンスコース)が登壇して謝辞を述べた。

最後は、混成合唱団アマデウスコール、グリークラブと共に校歌を斉唱し閉式した。

■秋学期入学式

国際教養学部のほか、Sophia Program for Sustainable Futures (SPSF)、理工英語コースなど、英語のみで学位が取得できる学部学科や研究科に今秋入学した正規生は235人(再入学者4人を含む)。うち145人は外国籍の新入生であった。

式はフィルマンシャー神父の祝福で始まり、マタイによる福音書9章9節から13節が朗読された。曄道学長の式辞に続いて、新入生代表のエリゼン



さまざまな国籍の学生を迎え2024年度秋学期入学式を挙行了した

ダ・サンナさん(総合人間科学部教育学科 SPSF)が登壇し入学への抱負を述べた。

アガスティン理事長は祝辞で、かつて本学の学生や教職員が経済的な理由から教育を受ける余裕のない発展途国の子どものために奨学金を立ち上げたエピソードを、本学の教育精神を象徴する価値観の一つとして紹介し、「上智大学は『他者のために、他者とともに』という教育精神に基づき、高等教育こそ高度な学術的卓越性を獲得する

ための全人格的な成長を促すという信念のもとに設立されました。これからの大学生活では、教室の中だけでなく至るところで多様な学びの機会があなたたちを待っています。知識を得るためだけでなく、他者に寄り添い、社会に良い影響を与える国際人になるためにここにいることを忘れないでください」と述べた。

上智大学後援会会長の米澤実氏から祝辞が贈られた後、最後は校歌斉唱で閉式した。



式辞を述べる曄道学長



卒業生代表の葛西華さん



祝辞を贈るアガスティン理事長



新入生代表のエリゼンダ・サンナさん

日本初の模擬アフリカ連合会議

日本とアフリカの学生らがチームを組んで政策立案に挑戦

8月23日、本学は日本初となる「模擬アフリカ連合会議(模擬AU会議)」を開催した。この会議は、日本の若者にアフリカへの理解を深めてもらうことを目的に、アフリカ連合(AU)加盟国の協議を学生が各国代表に扮して体験するもので、国際協力機構(JICA)や国連開発計画(UNDP)と本学が共催。来年のアフリカ開発会議(TICAD)



自国の方針を確認しながら議論に臨む

を前に、8月下旬に東京で実施されたTICAD閣僚会合のテーマ別イベントのひとつとして実施された。

模擬AU会議では、2~3人の学生が各国の代表団を形成する。各代表団にはアフリカからの留学生がメンターとして参加し、在京大使館からも助言が行われた。本学からは7人の学生が大使役として参加し、12人の学生が会



本学の学生で構成されたラポルトツールたちは通訳や議事録作成で大活躍

議運営をサポートする「ラポルトツール」役を担った。ラポルトツールを務めた学生たちは、元国連広報官で本学国際協力人材育成センター所長の植木安弘特任教授から事前に指導を受け、決議案作成のための議事録作成や、通訳として留学生と日本人学生の議論をサポートするなど、会議運営に貢献した。

当日は、午前のセッションを四谷キャンパスで、午後の本会議をホテルニューオータニで開催した。本会議では、各国代表団がグリーンエコノミーや気候変動などについて議論。各国の利害がぶつかる中、何度も折衝を重ねて作成された決議案は、賛成多数で採択され、会場からは大きな歓声と拍手が上がった。閉会式の最後には、伊呂



日本の学生と留学生らあわせて約130人が参加した

原隆学務担当副学長が登壇し、白熱の議論を展開した参加者の健闘を称えて会議を締めくくった。

赤道ギニア代表として参加した久保ジャネット珠希さん(総グ2)は、「今回大使になりきること、普段の勉強だけでは知り得ない、他国との関係や担当国が有する課題などを具体化することができた。全国からアフリカに関心のある学生や留学生が集まったことで、議題に対する視野を広げつつ仲を深めることができ、非常に有意義な一日となった」と振り返った。